

# 『中野まなぶ — 未来へ歩む物語』 ②

～生き立ち、学び、覚悟、理念、そして未来へ～

## 4. 安定を手放して政治活動に踏み出した覚悟

『ごく普通の一庶民』  
『安定を志向する平凡な公務員』

安定よりも、  
子ども達・若者達の未来を  
選んだ決断

その人が、  
市役所を中途退職して  
政治活動へ

単なる転職ではない

すごい人が立ち上がったのではなく、  
普通の人 が本気で未来を想って立ち上がった

04

## 5. 政治を志した理由は“未来への危機感”

約20年前から社会への違和感

- 少子高齢化
- 失われた30年
- 税・保険料 社会負担 増え続ける 国民負担
- 国際社会の中で 日本が取り残される 危機感
- 戦後体制への 問題意識

日本の未来を、  
本気で良くしたい。

学び直しを始めた

政治学  
経済学  
地方財政  
社会保障論  
国際関係論  
憲法

怒りだけで動いている人じゃない。  
20年、学び続けた末に  
立ち上がった人

突然政治に目覚めた人ではない  
20年学び続けてきた人

05

## 6. まなぶんの政治理念は“全体観”

政治家に必要な資質は、  
部分観ではなく全体観で  
判断すること

部分観・短期視点の考え方

批判する価値観：  
『今だけ、金だけ、自分だけ』

- 目先の人気取り
- 金のばらまき
- 自分や特定層の利益優先

小さな利益  
短期の得  
目先の評価

思想の背骨

社会の分断・衰退・未来のツケ

全体観・長期視点の考え方

- 国益第一主義  
日本全体の利益を最優先
- 共同体の強化  
家族・地域・国の絆を強く
- 全体の底上げによる弱者救済  
成長の果実がみんなに届く社会へ
- 歴史の連続性を踏まえた未来志向  
過去から学び、未来へつなぐ
- 日本人の精神性の発揮  
誠実・調和・思いやりの心を力に
- 目先の人気取りではなく、  
日本全体・地域全体・未来世代まで  
見て判断する人

06